

## 令和元年度第1回中空知定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

開催日時：令和元年10月16日（水）15：00～16：40

開催場所：滝川市まちづくりセンターみんくる 多目的室

出席委員：小磯座長、居林副座長、加藤委員、茅野委員、黒坂委員、上坂委員、中村委員  
石田委員、篠島委員、柁野委員、那須委員、荒岡委員、三原委員、渡辺委員  
川原委員、藤澤委員、中口委員、峯村委員、照井委員、高村委員

### 1. 開会

- ・委員27名中20名が出席し、過半数に達しているので、設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立している旨を報告。

### 2. 委員紹介

- ・事務局より出席委員紹介（委員の交代あり2名）

### 3. 挨拶

- ・主催者として滝川市長より挨拶

### 4. 議題

#### （1）第2期中空知定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について

資料3に基づき、数値目標やKPIに対するH30達成状況を報告

（委員）

57ページの「交流・移住促進」について、圏域外の転入者数は、2,760人ということで目標を上回っているということだが、人口は減っている。出生率や死亡などの理由もあると思うが、転出者数との比較はしているのか？ 比較をしているのであれば教えて欲しい。

（事務局）

転出者数について、（圏域内の）集計はしていないので、転出者数が何人かはお答えできない。

（座長）

人口減少の流れの中で、圏域外からの転入者数が増えているのは、広域行政として大きな成果。

相対的には、外に出ていく人との見合いで判断していくべき。目標が転入者数だけなので、転出者数との比較をする視点が大事。あとで確認いただきたい。

(委員)

49 ページの「地域公共交通」で、路線バス利用者数の減少率について、減少率が4%ということだが、私は、養護老人ホームに（勤務して）いるが乗りたくても乗れないということもある。利用したくても利用出来ないのが現状。

乗り降りの際に、運転手が高齢者などの乗客に配慮していただくと、利用する人も増えるのではと考える。

(座長)

いまご指摘の点、公共交通利用者への配慮も必要。

この点についてご説明を。

(事務局)

ご意見については、改善に向けてバス会社に要請したいと思う。人口減少が進む中、路線の見直しや減便という提案が出てきている。利用していただくために改善するところは改善が必要。また、利用していただくことにより、公共交通の維持が可能になると思う。運転手の不足も一因にあるかと思う。

(座長)

中空知全体で公共交通を議論する場はあるのか？

(事務局)

中空知全体ではない。路線ごとには協議する場がある。

(座長)

どこの地方でも、人口減少と高齢化の面から、今の事業システムだと利便性を高めていくことは難しい。

ソフトの部分でこういった取り組みをしていくのか。一方で、ICT技術の進展で、いつ頃、どのようなバスがくるのか事前情報で確認し、乗りやすさを高めていくとか、住民と観光利用を一体的に利用するなど、地域の実態に合った工夫を進めて行く必要がある。KPIの評価だけではなく、中空知としてどのような進め方があるのかという検討のきっかけになればと思う。

全体のKPIの指標を下回っている部分について、2期ビジョンを振り返って総括的な議論とか検討とかを行っているのか。

(事務局)

今回は、2期ビジョンの初回ということもあって、KPI自体の改訂はないが、本年度の進捗状況も見ながらKPIの変更も含めて考えていかなければならないと考えている。

(座長)

地方創生の議論もそうだが、KPIという業績目標の達成状況で政策の評価を行うことが広まっているが、怖いのは指標が達成できたかどうかによって偏ってしまうと、政策目的が達成できたのか、どのように進捗しているのかを見失ってしまう可能性がある。バランスをもって、KPIは一つの目安としていくべき。大きな目標に沿って、進捗に向けた課題があるのであれば、それは別に検証していかなければならない。

他の政策の議論でも同じことが言える。KPIが達成されたかどうかは大きな問題ではなく、達成されなかったらKPIの設定自体に問題があったのではないかと反省する必要はあるが、中空知のあるべき姿に向けて、どこまで施策が進められているのかを協議していく必要があるので、あえて指摘させていただいた。次回以降、検証する際には、このようなことに気を付けて検証していただきたい。

## (2) 第2期中空知定住自立圏共生ビジョンの改訂について

資料3に基づき、第2期共生ビジョン改訂案を説明

質疑無し

## (3) 平成30年度仕事の魅力発信と総合的な就業・移住支援事業報告

資料4に基づき、実施状況を報告

(座長)

取組まれた印象、地元で働く場を求める動きはどのような状況か？

(事務局)

管内すべての情報を把握しているわけではないが、滝川市では総合戦略にも位置付けているが、高校生の地元定着率は上がってきている。全体としてみれば、地元に残る高校生は増えている状況にあると思う。

一方で、市内全体の人手不足を補うほどの状況にはない。

(委員)

中空知それぞれのマチで、高校生に地元就職してもらうための取組みがあると思う。赤平、砂川、奈井江は製造業が多いので、いろいろな工夫をしていると思う。滝川は、サービス業が多い。高校生に残ってほしいが、高校生の希望と条件が合わない。ある経営者の方に聞くと、今の若い人は、給料が高くて残業が多いのは絶対ダメ。休みをきちんと取りたい。建設業は嫌われる。外で厳しい仕事をするのは嫌われる。それぞれの企業が相当工夫をしている。確かに市内就職の数字も増えていて、希望者も増えているが、もう一つの大きな問題は、割と早い時期に仕事を辞めてしまうと聞いている。

(座長)

北海道では、若い女性はこれまでは札幌までだったが、ここ最近、東京圏に出ていく若い女性が増えた。好条件で、東京の企業が引っ張っていく。

手をこまねいている状況は良くない。地元にある程度の企業があるのであれば行きたいという意見もあるが、情報がないということもある。地元企業との連携でわかりやすい情報を出していこうという取り組みもある。地域のなかで、雇用のミスマッチを防ぐような取り組みは、中空知の定住自立という中で重要な取り組みになってくると思う。仕事に就きたい若い人の感性に見合うような施策も考えていかなければならない。ミスマッチが続くと、大事な若年層が外に出て行ってしまふ。

#### (4) 今後のスケジュールについて

事務局より、今後のスケジュールを口頭で説明

質疑無し

**ビジョン懇談会終了後、講演会を実施。**